

3 投票方法

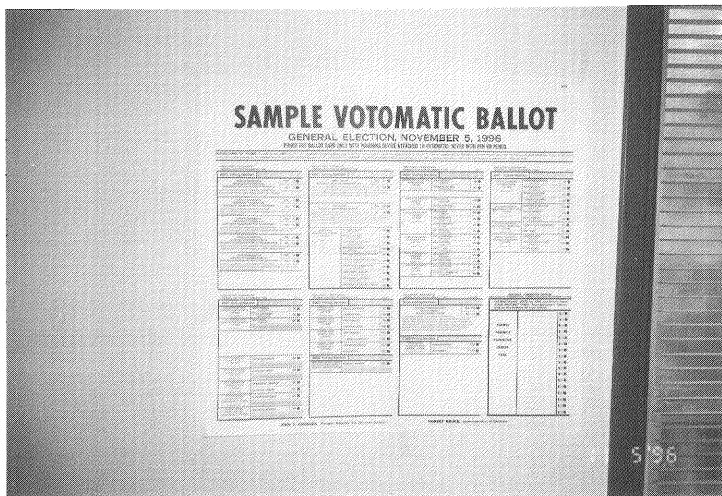
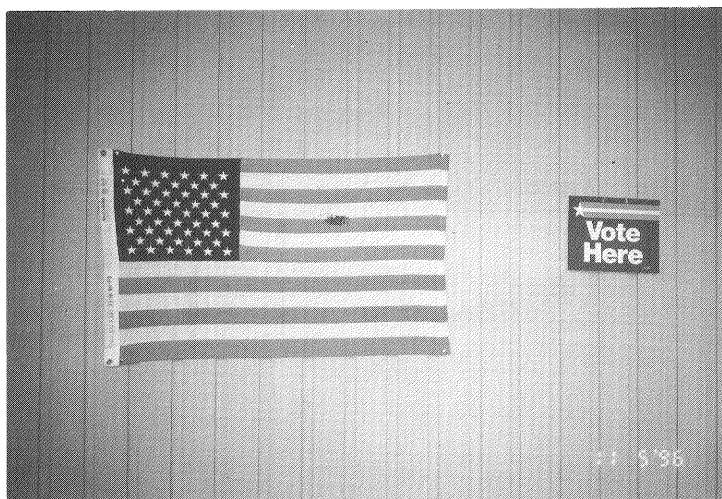
実際の投票方法は、州および地域によってさまざまであるが、ここでは、ワシントン州シアトル市郊外の投票所の様子、郵送による投票の方法、州政府の広報コーナー、およびワシントン州、オレゴン州、カリフォルニア州、およびニューヨーク州の選挙広報誌について簡単に紹介する。

投票は、たいてい学校や教会を借りて行われる。

投票所では、カウンティ政府から委嘱を受けたボランティアが、有権者名簿との照合を行い、本人であることが確認されると投票を行うブースに行くことができる。ただし、日本のように、事前に役所からはがきのような通知が来るわけではない。投票を希望する者は、事前に有権者登録を自ら行う必要がある（有権者登録に関する全国選挙民登録法については、当事務所執筆のCLAIR REPORT第98号、「1994年中間選挙」を参照されたい）。また、場所によって（名簿照合者によって）、本人確認を運転免許証などで厳密に行う場合と、口頭の確認のみで終わる場合があるようである。



シアトル中心部

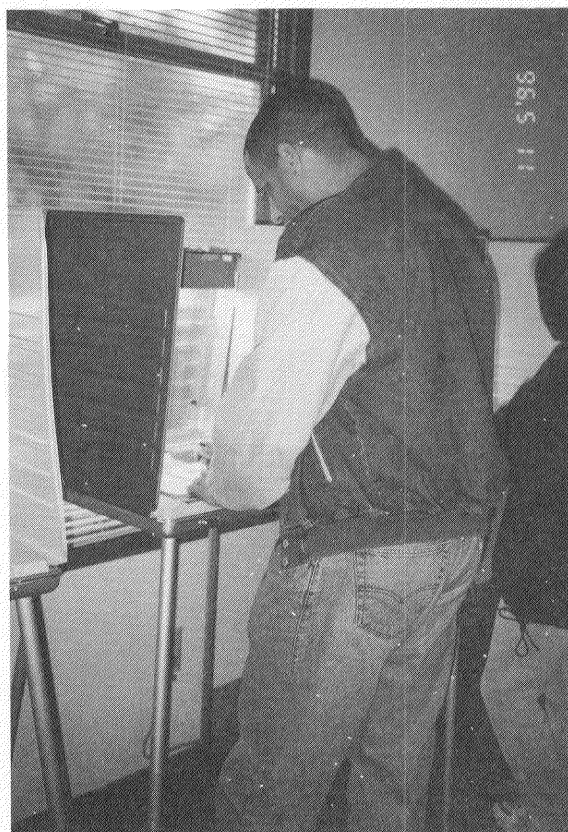
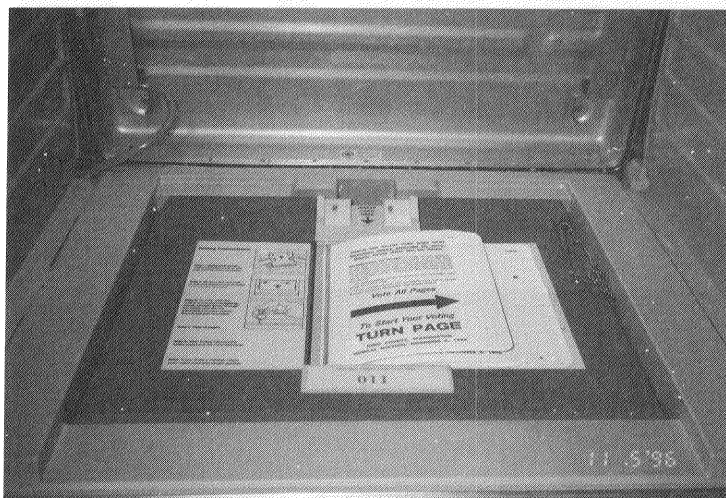


投票所となった教会及び投票所内の掲示

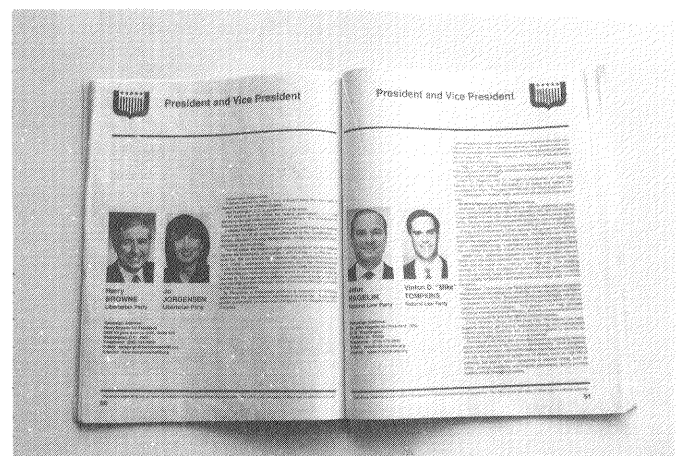
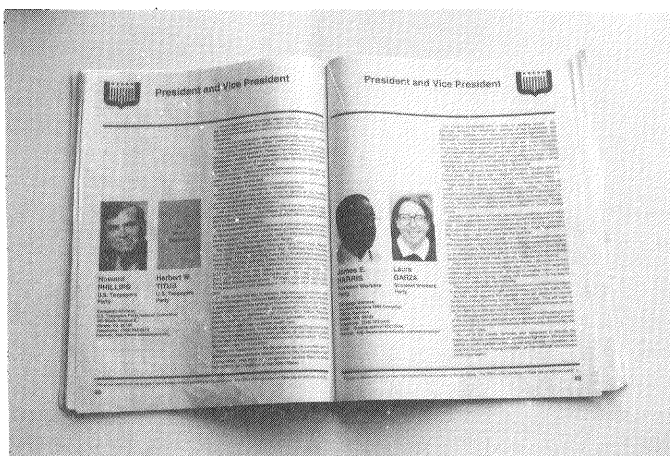
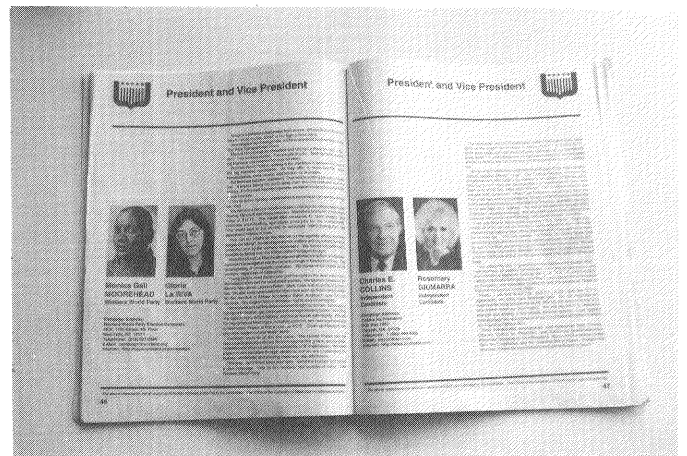
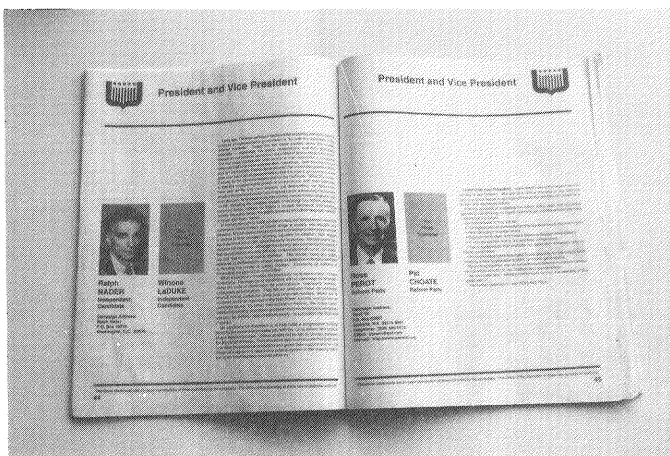
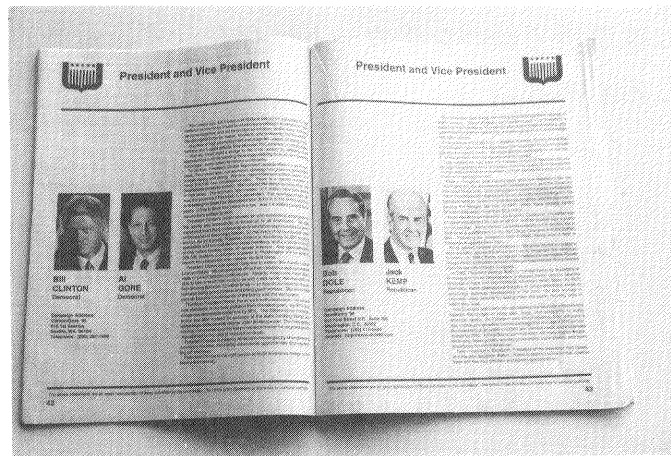
この投票所では、本人確認後パンチカードをもらい、ブース上のプラスチック製の説明書きの指図に従って、投票作業を進めるようになっている。

最初に住民発案に対して、賛成ならYESの穴に、反対ならNOの穴に小さなピンを差し込むと、あらかじめ自分が下にセットしたパンチカードに穴があく仕組みになっている。

次に、大統領には誰を選出するかに進む。州内で立候補した大統領候補者と副大統領候補者の氏名および政党名がすべて一覧となっており、自分が大統領にふさわしいと思う候補者に投票する。ワシントン州では、民主党、共和党の2大政党以外にも、Natural Law、Libertarian、US Taxpayersなど、10の政党が立候補していた。

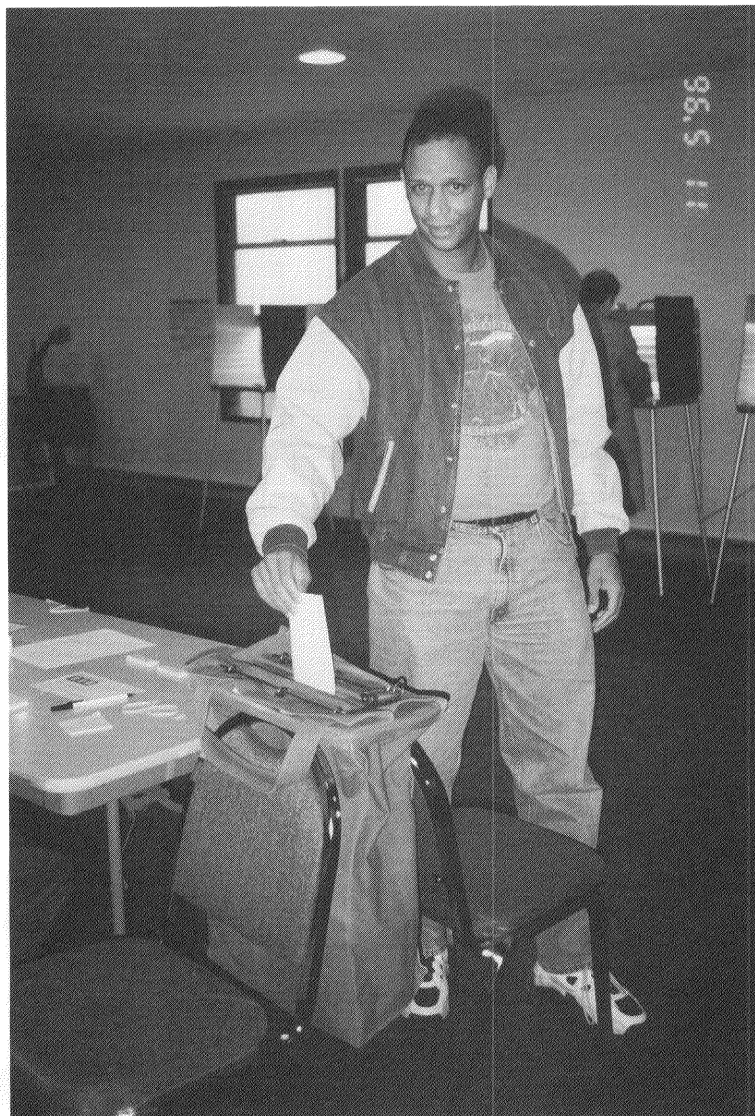


投票ブース台の上、及び投票中の様子



大統領選挙立候補者

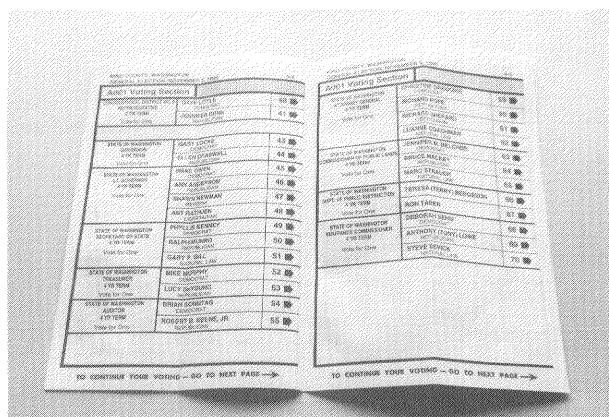
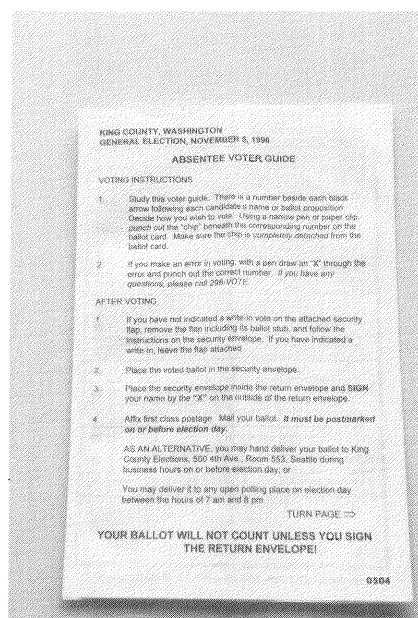
その後、同様に連邦議会議員、州知事、副知事、州務長官、財務長官、裁判官などに投票を行い、終了すると、パンチカードを抜き取って、投票箱に投票する。この場面は、日本の投票と同じである。ただし、この投票所はシアトル市内ではむしろ旧式な投票方法を採用しており、先進的な投票所ではパンチカードは存在せず、電氣的に投票内容が州単位で即座に集計されるところもある。



投票の様子（投票者はワシントン州政府職員、ケヴィン・ジョンソン氏）

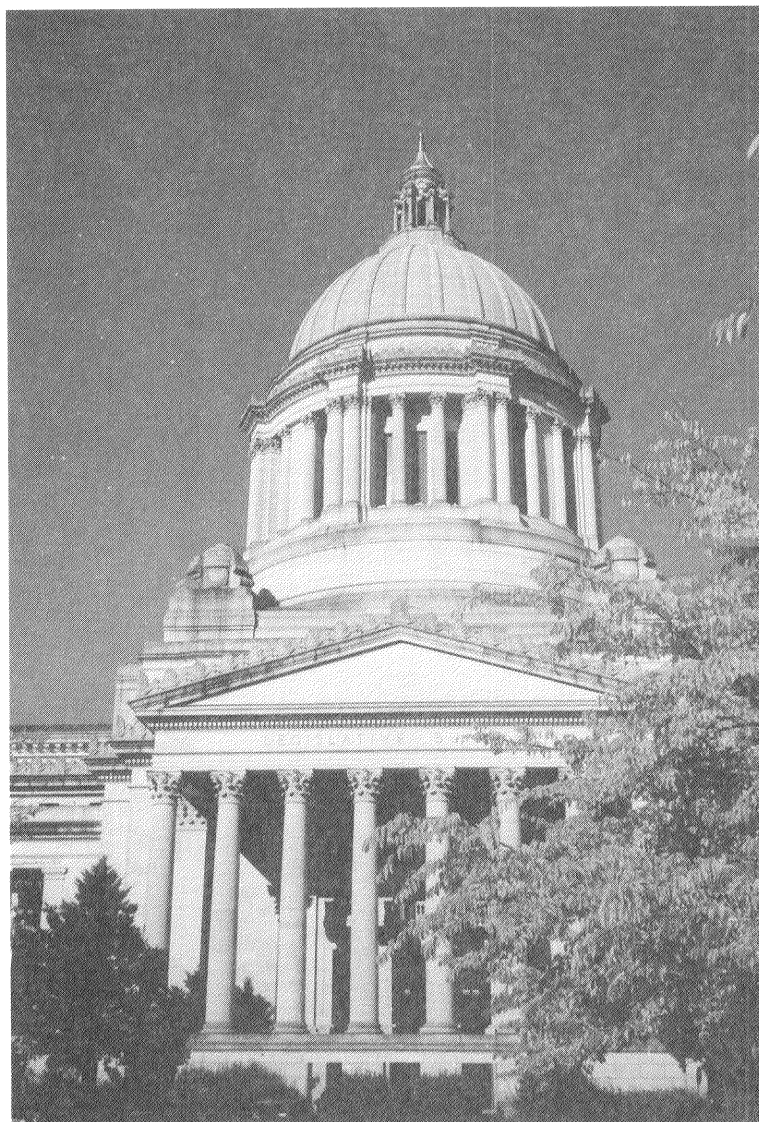
次に、不在者投票であるが、これは事前にカウンティの選挙管理事務所に申し込み、上記で使用した投票ガイドブック（こちらは、もちろん紙でできている）と、パンチカード等の投票セットを一式、自宅まで送ってもらう。投票行為自体は投票所で行うことと内容的にまったく同一であるが、違うことは、自分でパンチカードのしかるべき穴を探して、ペン先等でミシン目のはいった穴に穴をあけること、そしてそのパンチカードを選挙管理事務所へ郵送することである（投票日の消印まで有効である）。

不在者投票のメリットとして、自宅で新聞、選挙広報等の資料をよく検討し、ゆっくりと考え、投票内容を決断する時間が持てることがある。実際、日本の選挙における投票のように、1人の候補者に投票するだけのものとは異なり、米国の投票は、例えばワシントン州の投票者は32種類もの投票を一度に行う必要があるなど、非常に時間がかかり、かつ集中力を要求される行為である。

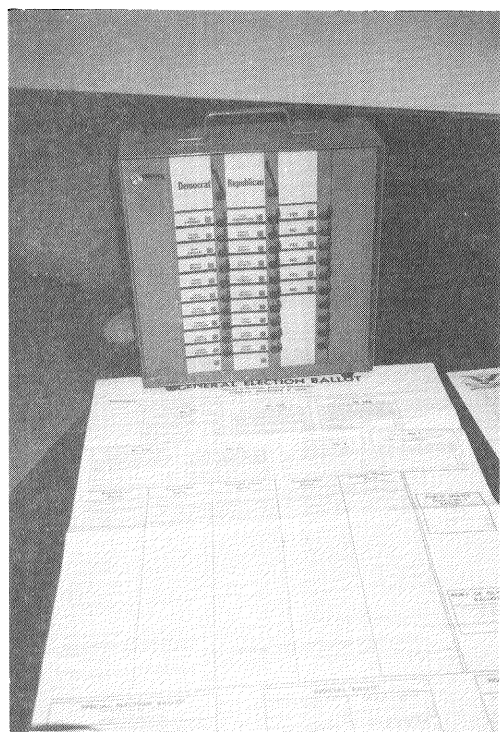
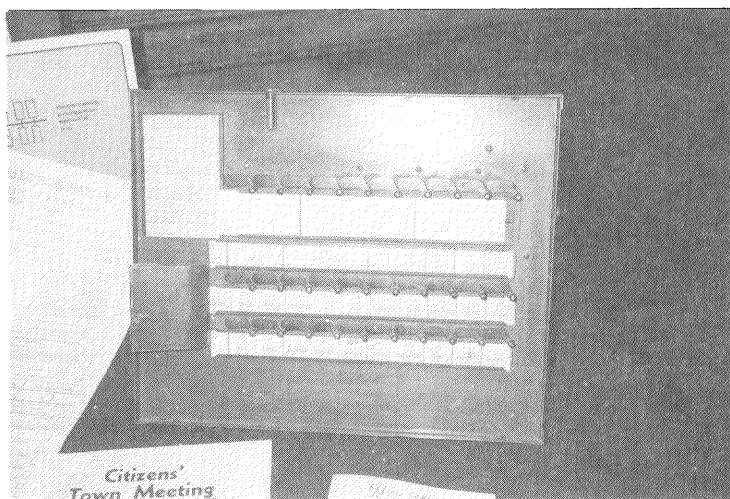
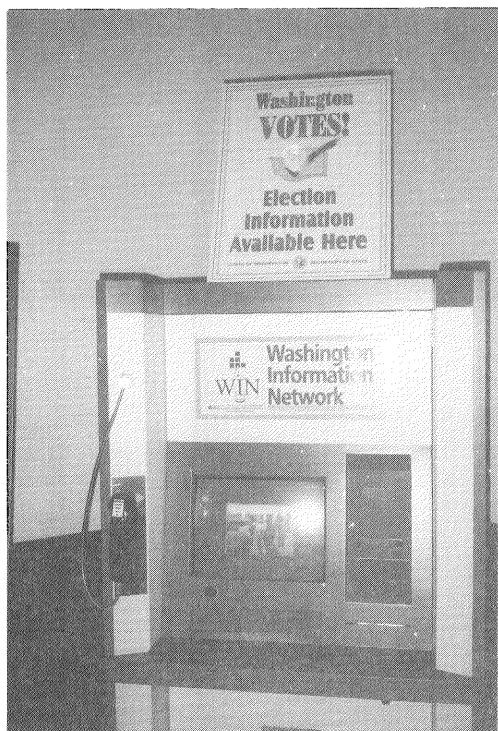


不在者投票用ガイドブック、及びその中味

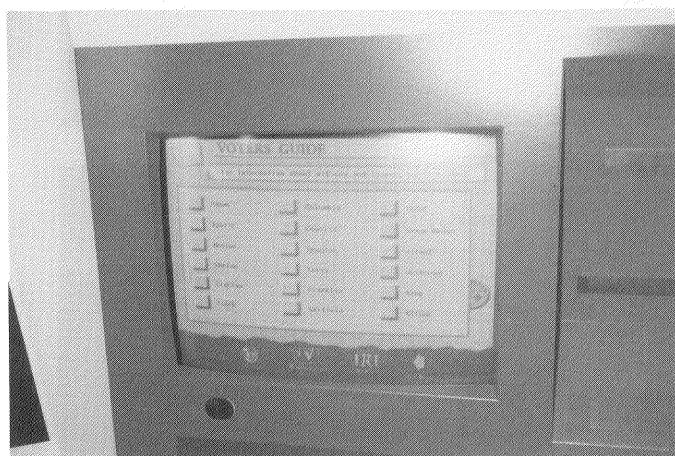
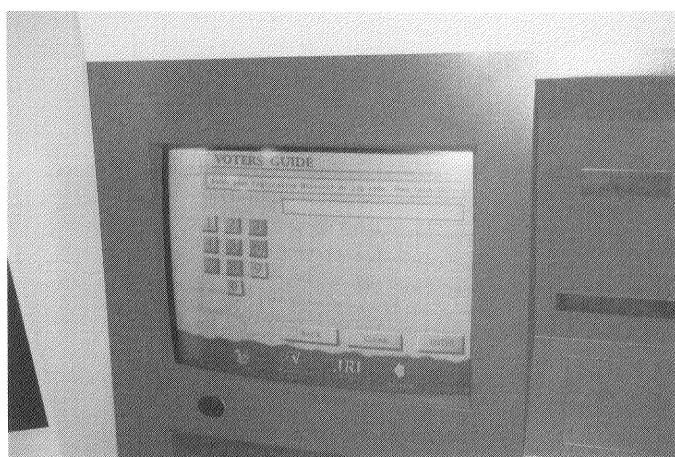
ワシントン州政府では、啓発・広報活動の一環として、州議会議事堂内部にPRコーナーを設け、実際の投票機械を展示したり、パソコンによる有権者登録案内などを行っている。



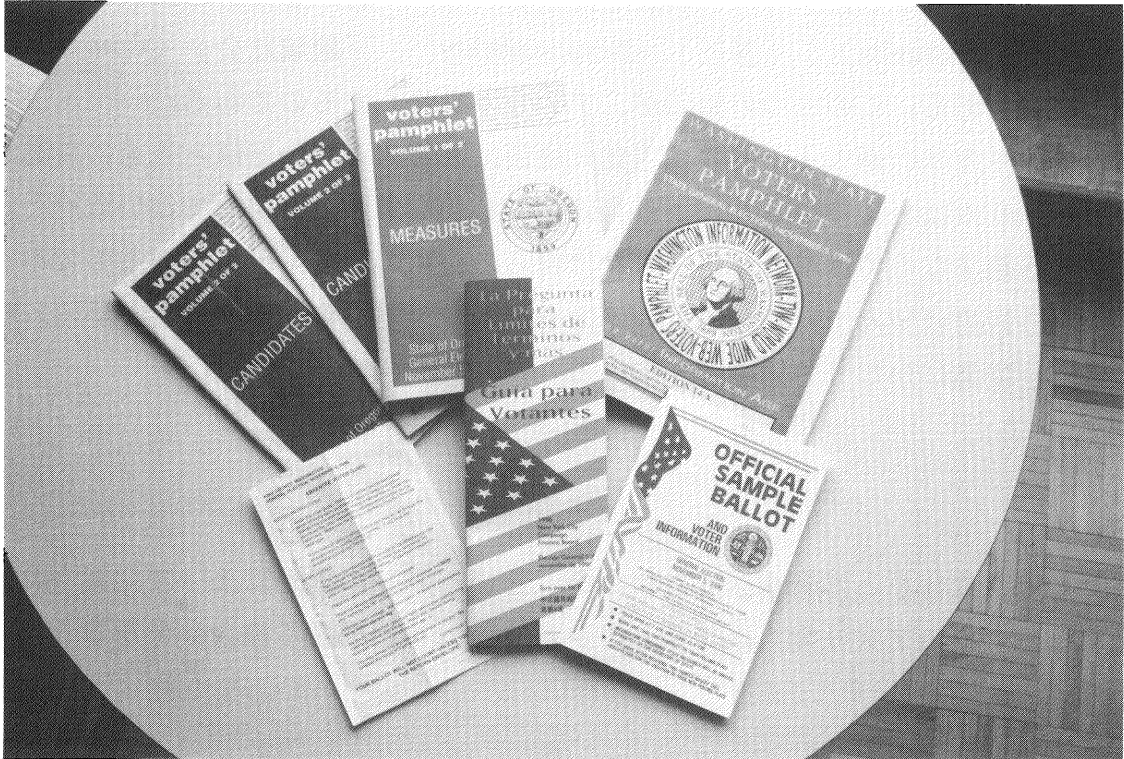
ワシントン州議会議事堂（オリンピア）



議事堂内部の投票広報コーナー



コンピュータの案内に従って、住所と名前を入力し、有権者登録を行う



ワシントン州、オレゴン州、カリフォルニア州、及びニューヨーク州の選挙広報誌